

競争力のなくなった 賃貸住宅の再生法

第12回

～室内空間と照明～ 賃貸住宅での 照明の上手な使い方

賃貸住宅と個人住宅で
異なる照明の考え方

◆照明を自然光(太陽)に 置き換えてみる

屋外では、昼は空高い天空が明るく、夕暮れ時は少し低い位置に明るさがきます。このような自然の法則に合わせて人は、明るい活動的になり、やや暗い低めの位置にある「あかり」にリラクゼーションします。私たちが寝食などの生活を営む空間では、このような自然の法則どおりの「あかり」を照明で再現することによって、体のリズムに

合わせて快適に過ごせるのです。

◆明るいだけの賃貸住宅

所有住宅(特に注文住宅)の場合、照明効果を考えて設計されることが多いですが、賃貸住宅に関しては、明るさの確保のみを目的として、照明計画をなされていなくて、現状ではないので

しょうか。

ほとんどの賃貸住宅には、居室の天井中央部に引掛けシーリングと呼ばれる電灯専用のコンセントがついており、入居者が好みの照明器具を買って取り付けます。

一方、個人住宅では建築化照明といわれる、光源を天井や壁などに組み込み、建築構造と一体化させた照明方式がとられるケースも少なくありません。さらに、デザイン性の高い壁付けの照明器具や吹き抜け部分のシャドリア、作業の可能性がある場所には部分照明、寝室で

は横になった時に光源が目に入らない工夫など、空間のバランスや暮らし方に合わせた照明計画がなされることも多いでしょう。

このような個人住宅で採り入れられている照明方法を賃貸住宅にも導入し、お洒落な照明で物件の魅力をアップさせるといっても、他の物件との差別化をするにあたっての大きなポイントとなるのです。

部屋の使い方が明確ではない賃貸住宅だからこそ、しやれたデザイン感覚で入居者の気をひいてもよいのではないのでしょうか。

建築化照明を知る とこんなに違う

◆建築化照明って?

建築化照明の基本は間接照明で、間接照明とは光源から出た光を直接空間に照射しないで、まず壁・天井などに反射させて、室内の明るさをとる方法です。その反射光がまわりを照らすので、全体的に柔らかな印象を与えることができ、目にもやさしくリラクゼーション効果があるとい

われています。また、照明を部分的に照らすことで明るさの濃淡をつくり、全体に立体感を生み出す効果もあります。ひとつの照明で部屋全体を一度に照らす直接照明とは違い、さまざまな空間演出ができる照明方式です。

照明計画とは、光源からの光をどこにどのようなように当てるかが大きなポイントになります。全ての床・壁・天井が明るいと逆に、くたびれてしまう空間になってしまいます。照明デザインは、暗さをどのようにデザインす

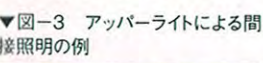
建築化照明が難しい という場合は「レ」!

◆建築化照明が無理でも こんな手もある!

前述した建築化照明による間接照明方法は、施工が難しいため工事費がかさむという難点があります。例えば、天井に取り付けたスポット照明(図-1)や壁付けのブラケット(図-2)により壁を照らす方法だと、費用が照明器具だけで済むので、気軽にリフォームなどに利用できます。ライティングレールを店舗のように天井に這わせ、スポットライトを入居者が自由に配置できるなど、遊びの部分があっても楽しいでしょう。また、天井高が高い居室ではアッパーラ



▲図-2 ベットの枕元を想定して設置したブラケットの間接照明



▼図-3 アッパーライトによる間接照明の例



図-1 引掛シーリング用ライティングレールを使用したスポット照明

イト(図-3)を使用することにより、建築化照明と似通った効果をもたらせることも可能です。

蛍光灯と白熱灯、 どちらを選ぶべきか

◆使用目的で使い分けの がベスト

蛍光灯は白熱灯と比べ、イニシャルコストが高くなりますが、ランニングコストは安くなります。白熱灯はその逆で、ランニングコストが高くて、イニシャルコストは安いのです。

事務作業、勉強などを行なう空間では、部屋を全体的に影がでないように十分明るくした方がよいので、蛍光灯を用います。それに対し、白熱灯の暖かみのある光は、リビング、ダイニングなどくつろぎや食事をおいしく楽しむ空間に用いると、リラクゼーション効果が高くなります。冒頭で述べましたが、人間は夕日を見て身体がリラクゼーションモードや睡眠モードに入ります。白熱灯の光はそれと同じなので、癒され、くつろぐには有効です。浴室

洗面所に用いければ、肌色が綺麗に見えます。

その他、トイレ、廊下などその場所にいる時間が短く、点灯や消灯が頻繁に行われるところには、白熱灯が望ましいでしょう。なぜなら、蛍光灯は点灯するのに電気を多く消費するだけでなく、光が安定するまでに時間がかかるので、オンオフの激しい場所での使用には不向きで、器具自体の寿命も縮まってしまふからです。蛍光灯の光は長時間作業中心の場所での使用に効果を発揮します。また最近では蛍光灯ランプも白熱灯と同じくらいの大きさにまでコンパクトになり、白熱灯の照明器具に蛍光灯ランプを取り付けられるようになりましたが、まだ白熱灯に比べかなり高額になります。

また、全体照明や作業照明として、蛍光灯の光が必要不可欠なところは蛍光灯タイプにして、アクセント・装飾照明には白熱灯タイプにするなど上手に使い分けることも必要です。

なお、賃貸住宅で使用するランプは、球切れの際に、

入居者がすぐに対処できるように、どこかのパーマネントでも売っている一般的な電球や蛍光灯にするべきでしょう。一般の電球や蛍光灯以外では、レフランプ・クリプトンランプまでが無難といえます。

入居者ターゲットによる 照明器具の使い分け方

◆高齢者の入居者への 配慮すべき点

高齢者をターゲットにする場合は、老化による視力の衰えもあるため、明るさを重視し、蛍光灯で煌々と明るくさせ、電球交換などのメンテナンスが簡単に出来るもの例えば作業の際には照明器具が下げられるなどにするのが喜ばれるかもしれせん。また、使い慣れているものでないといけないという性質から、普通電球や蛍光灯など見慣れたランプを使い、その種類を少なくするなど工夫があるとよいでしょう。高齢者は20代の若者の2〜3倍高い照度が必要ですが、高エネルギーな照明器具にするだけがその方法で

はありません。壁面を白色系統にして反射率を上げれば照度を上げるのに有効に働きますし、壁に当たった光が白い方がより明るく見えます。

最近では、若い頃から明るすぎる部屋で育ったため、年齢を重ねると更に明るさが必要になるといふケースが増えているそうです。

LED照明の利用価値とは

◆進化し続ける次世代照明。 現状では、設置場所に よっては有効的

最近ようやくLEDという言葉が一般化してきました。一般の白熱灯の寿命が1500時間と短命なのに對して、LEDは4万時間もの超寿命で、消費電力は白熱灯の約1/3〜1/10、蛍光灯の約1/2といわれています。

現状でのLEDの有効的な使用方法としては、長寿命のランプ特性を活かして、共同部分の吹き抜けの高い所や階段室など梯子を使っても届かどうか難しい場所など、球切れの際に交換するのが困難な場所に用いると大変有効です。また、少量の明かりで十分だけど、常に点灯しておきたい場所に常夜灯として用いるのにもお勧めです。このように考えると、賃貸住宅でもLED照明を活かす場所がみえてきますね。



プロフィール
著者 IC21 目黒 裕子

インテリアコーディネーター/カラーコーディネーター/照明コンサルタント
モデルルームコーディネート及び、住宅、店舗、病院などのデザインから施工まで、内装にまつわるトータル業務を行っている。
IC21 (http://www.ic21.net)とは、女性100人のインテリアコーディネーター集団。企業・ユーザーの間で住まいのデザインを中心に活躍中